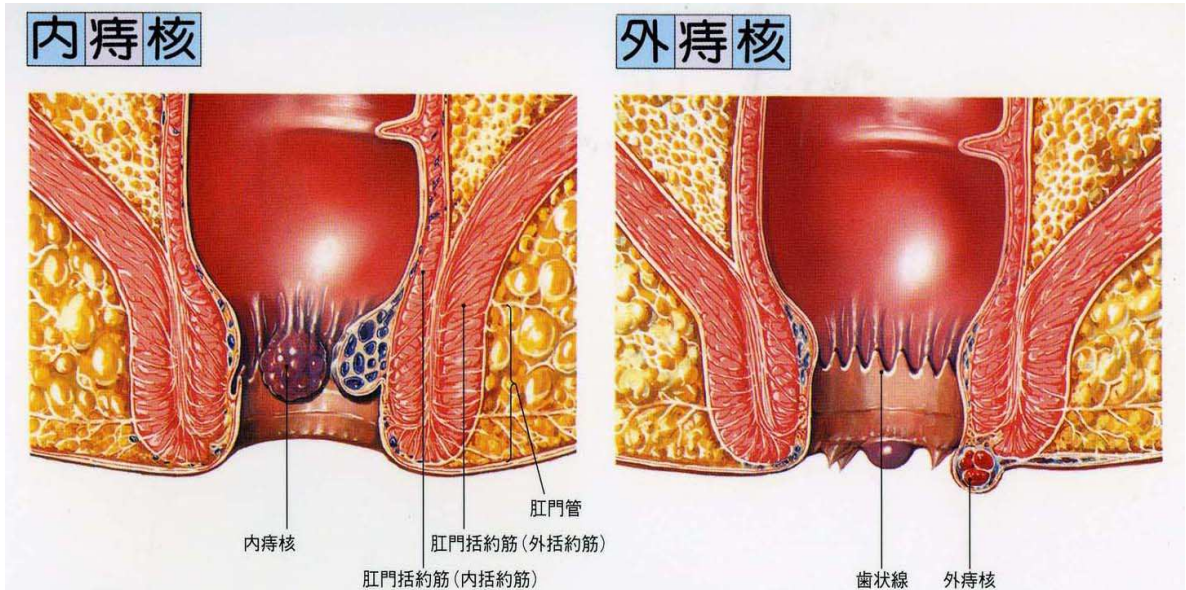


痔核の手術に対する説明書

1. 病名と病状

痔核は外痔核と内痔核に分けられ内痔核は血管性の痔核と粘膜性の痔核に分けられ病態に応じた術式が選択されます。

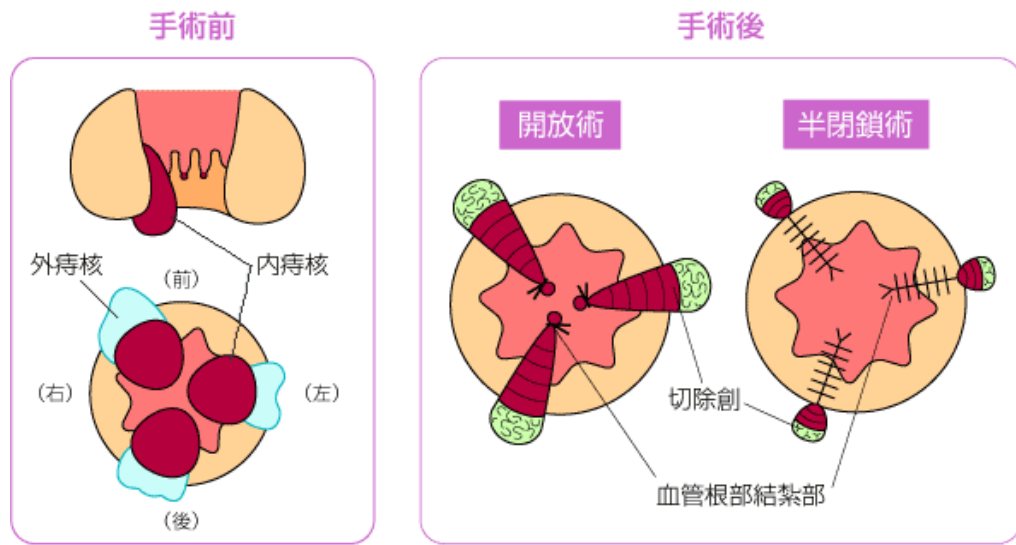
あなたの痔核は_____と考えられます。



2. 予定術式とその内容

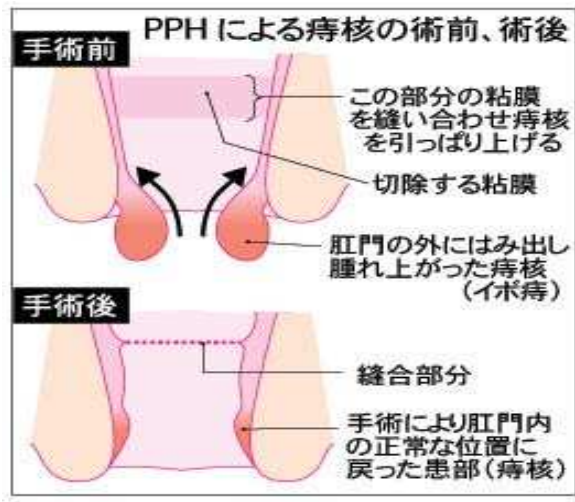
痔核の状態により術式を決定します。痔核の手術には以下の手術がありこれらを組み合わせて行います。

① 結紮切除術：すべての痔核が適応になります。

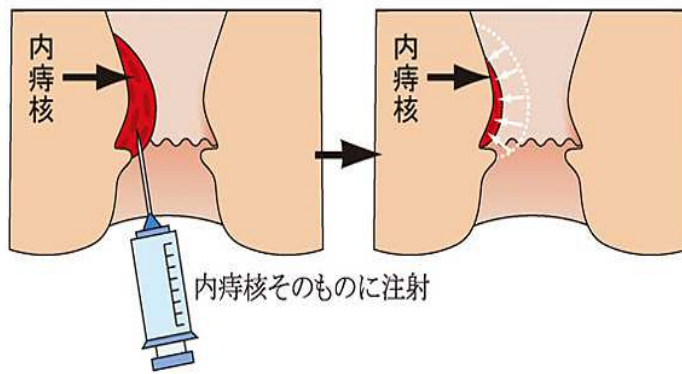


② PPH (Procedure for Prolapse and Hemorrhoid)

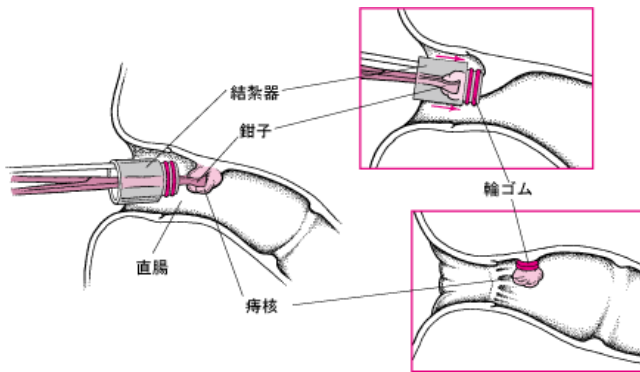
粘膜性の痔核・全周性の痔核が適応になります。



- ③ 硬化療法（ALTA 注射療法）
血管性の痔核に適応があります。



- ④ 輪ゴム結紮術・分離結紮術
単独で行うことは少なく前述の手術の補助として行われます。



今回の術式は_____の予定です。麻酔下にての観察（正確な痔核の把握）にて術式が変更となる場合もあります。

3. 手術により期待される効果

痔核による症状（出血・疼痛・脱出）の消失

4. 手術以外の治療法

痔核は良性疾患であり手術以外の治療で経過観察は許容されます。また痔核の手術の適応は患者さんの身体的・社会的要因で決まります。術前によく相談し判断して頂きます。

5. 麻酔法：無麻酔・局所麻酔・腰椎麻酔・全身麻酔

6. 手術の危険性・合併症・後遺症

【術中・術後早期合併症】

- **出血**：術中の出血、また術後に手術操作で止血したはずの血管からの再出血が生じることがあります。状況に応じ、輸血や止血術などが必要となることがあります。
- **感染**：基礎疾患としての糖尿病やステロイドなどの薬剤使用、また高齢などはその危険因子です。対策として抗生剤の予防的投与などを行います。
- **肛門機能障害（排便障害）**：基本的には神経・括約筋は温存され障害はでません。しかし肛門はデリケートな部位であり術後の変化が排便障害・肛門違和感と認知することもあります。術前から機能障害・排便障害のある患者さんに認められることが多いです。
- **肛門部疼痛・違和感**：術式の違いにより術後の疼痛の程度は異なります。ALTA 注射療法では注射部位が硬結となったり肛門の浮腫を伴うことがあり疼痛の原因となることがあります。非常にまれですが術後数か月後でも慢性肛門痛・違和感として残存することもあります。術前に疼痛の強かった患者さんに多い傾向があります。
- **呼吸器合併症**：術中・術後は呼吸状態が不安定となりやすく、さまざまな呼吸合併症を併発しやすい状態となります。痰の喀出困難などによる肺炎、無気肺などが代表的なものです。特に呼吸器に基礎疾患をお持ちの方や高齢の方では発生率が高くなります。
- **循環器合併症**：手術によるストレスなどにより術中・術後は循環状態が不安定となりやすく、狭心症・心筋梗塞・不整脈・心不全などの循環器合併症をきたしやすい状態となります。特に心臓に基礎疾患をお持ちの方、また高齢の方は危険度が高くなります。
- **血栓症に起因する合併症（肺梗塞、心筋梗塞、脳梗塞など）**：下肢にできた血栓が飛んで主要臓器の太い血管に詰まり、塞栓症を生じることがあります。詰まった臓器が肺であれば肺梗塞、心臓であれば心筋梗塞、脳であれば脳梗塞となり、いずれも生命にかか

わる重篤な状態となります。

- **その他の臓器障害**：手術や麻酔、またこれに伴う薬剤使用の影響により、発熱や肝臓や腎臓などに機能障害を生じることがあります。多くの場合一過性であり保存的に治癒します。

【術後晩期合併症】

- **肛門狭窄**
- **再発**：術式の違いにより若干再発率に差があります。結紮切除術は確実であり再発率が低いですが術後の疼痛・後遺症の頻度が多くなります。根治性（再発を防ぐ）と術後の生活のバランスを考え術式を選択します。

その他：術中はもちろんのこと術前後も細心の注意を払って治療にあたる所存ではありますが、上記に述べた合併症に加えてその他予想外の状況を生じる場合もあります。緊急での対処が必要な場合には、あらかじめご説明していた治療ではなく、その状況に応じた最善と考えられる治療に余儀なく変更することもあります。

7. 術後経過予定

手術後の合併症が起こらず順調に経過した場合、数日で退院が可能となりますが、手術内容や合併症の有無によりこの期間は異なります。退院後は日常生活（食事やお風呂・運動）が可能になります。退院後に症状が出現したり相談などがありましたら365日、24時間当院が対応致します。

以上、痔核の手術治療につきその概略を説明いたしました。

説明を充分にご理解されたうえで、手術の同意をご自身のお考えで決めてください。ご不明な点等ありましたら遠慮なく担当医までお尋ねください。

説明にあたった医師

しらはた胃腸肛門クリニック横浜

院長 白畑 敦

平成 年 月 日